葬儀費用の見える化
イオンの葬儀紹介業　29万8千円～148万円

朝日新聞
2012年8月25日

葬儀会社ユニクエスト・オンライン（大阪市）
06年起業、田中智也社長

■ 通夜・告別式なしの火葬式　17万8千円

■ 通夜・告別式をする家族葬（49万8千円）

内容をシンプルにした3プランを発売。
いずれも食事はなしで会館使用料などを含み追加負担が一切ないのが特徴。
価格には含まれないお布施も定額を明示している。
今では年間の取扱件数は約1万件に達し、取扱金額は約40億円にのぼる。

燦（さん）ホールディング（大阪市）
1932年創業の業界最大手公益社を傘下に持ち、首都圏や近畿で48施設を展開。

年間1万件を取り扱う。
11年度の売上は182億円。

ホームページ上には、過去の80万円～320万円かかったケースが紹介されている。（お布施など④を除く）

葬儀に明朗会計の波

定額プラン・低コストが人気

わかりにくいと何かと評判の悪かった葬儀費用の「見える化」が進んでいる。内容をわかりやすく明示した定額プランの人気を背景に、新規参入組が活気づく一方で、既存業者側は葬儀の質で勝負する。さて、葬儀費用の相場とは？

イオンが各店舗で開いている勉強会。葬儀費用について無料で解説している＝イオン提供

南関東に住む60歳代の女性は、夫の葬儀の請求書を見てあぜんとした。「費用はトータルで約170万円」。業者にそう聞いて依頼したが、請求額は260万円。食事や返礼品に80万円かかったと説明された。

これは今年7月、国民生活センターに寄せられた相談だが、背景には業界特有の費用区分がある。

①祭壇やひつぎ、人件費など、葬儀そのものにかかる料金②会館使用料や搬送車両費③会葬者らの飲食代④お布施などの宗教費用――の4種類だ。業者は①を「葬儀一式費用」などと説明することが多く、②～④を加えた総額はその2倍前後になるのが一般的だ。

こうした慣例に一石を投じたのが、イオンの葬儀紹介業への参入だ。ギフト売り場で客が葬儀費用に不満を漏らすのを聞き、2009年、価格と内容を明示したプランを提供し始めた。

現在は約460社の葬儀業者と提携し、参加人数の多少で祭壇などに差をつけた六つの「フリープラン」（29万8千～148万円）を提供し、ホームページ上で公開している。

プランに含まれているのは①だけだが、②～④については、個別のニーズに応じる形で目安を伝え、支払総額の見当がつくようにした。これまでに約4万3千件の問い合わせがあり、取扱件数は毎月、前年同月比で倍増のペースだという。

葬儀費用の総額は平均199・9万円。前回調査の07年（231・0万円）や前010年の調査によると、葬儀費用は下落が続いている。日本消費者協会の2

高額に疑問「増加」

価格のフシギ

葬儀手続きの流れ

イオンが紹介する場合		トラブルが起きやすい業者の場合
基本料金と葬儀内容を説明、基本料金外のお布施や飲食代などの目安も提示	申し込み前	事前の価格明示はなし
提携先の葬儀業者が訪問、項目ごとの見積もり作成。イオンもチェック	見積もり	内容や費用の説明が不足したまま、追加のサービスを提案
見積書、契約書を交付	契約	見積書や契約書を交付せず
葬儀		
葬儀内容を確認した上で、契約通りの額を請求	精算	利用者の予想を超える額を請求

イオンのお葬式の仕組み

葬儀費用 フリープラン 29万8千円～148万円

参加人数やグレードで価格が変動する

- 祭壇設営費用
- 生け花アレンジ　　6段階
- 運営管理費用
- ひつぎ　　5段階
- 納骨容器／骨つぼ
- 遺品装飾アレンジ　　2段階
- 枕飾り一式、遺影写真、会葬礼状など　　一律

＋

別途費用
- 会館使用料
- 貸衣装
- バス、タクシー代
- 警備員
- 遺体搬送や火葬などの立て替え費

＋

おもてなし費用
- 返礼品
- 通夜料理など飲食費

＋

宗教費用
- お布施など

＝

葬式の総費用

高額に疑問「増加」